

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		江戸川大学		設置者名	学校法人江戸川学園			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成21年度)			
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数
						実数	個別	
社会学部	人間心理学科	100人	中一種免(社会)	平成19年度	82人	2人	2人	0人
			高一種免(公民)	平成19年度			2人	
	ライフデザイン学科	100人	中一種免(社会)	平成19年度	51人	0人	0人	0人
			高一種免(公民)	平成19年度			0人	
	経営社会学科	120人	中一種免(社会)	平成19年度	81人	3人	3人	0人
			高一種免(公民)	平成19年度			3人	
メディアコミュニケーション学部	マス・コミュニケーション学科	130人	中一種免(国語)	平成22年度	121人	1人	0人	0人
			中一種免(社会)	平成19年度			1人	
			高一種免(国語)	平成22年度			0人	
			高一種免(公民)	平成19年度			1人	
	情報文化学科	100人	中一種免(英語)	平成19年度	36人	1人	1人	0人
			高一種免(英語)	平成19年度			1人	
			高一種免(情報)	平成19年度			0人	
入学定員合計		550人	合計		371人	7人	14人	0人
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、平成22年4月1日現在の名称・定員である。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄には各学科等の実人数を、「個別」欄には各学科等内の教職課程ごとの人数である。							

実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成22年6月22日（火）

実地視察大学：江戸川大学

実地視察委員：狩野浩二委員、宮崎英憲委員、渡辺三枝子委員

■ 大学の教員養成に対する全般的な状況

<状況>

- ・2学部5学科で教員養成を行っている。

<講評>

- ・教員養成に関する教育課程、教員組織等については、全般的に基準を満たしている。
- ・取り組みが始まって間もない部分が多く、今後引き続きの努力が必要だが、概ね良好に実施されていると考えられる。

■ 教員養成に対する理念、設置の趣旨等の状況

<状況>

- ・建学の理念である「人間陶冶」の意義を理解し、教育現場で体現できる人材の養成を目指している。
- ・また、「国際化」と「情報化」に力点を置き、地球的視野に立って行動するための資質能力、変化の時代を生きる資質能力を目指している。

<講評>

- ・教員養成に対する理念・構想が示されているが、それを明確化・具体化するために、教職課程に対する全学的な組織、教育課程や教員組織がより一層充実したものとなるように、今後も努力が必要。
- ・教職課程を有している意味が見えにくく、大学としてどのような教員を育てたいのか、より一層コンセンサスが得られる仕組みを設けることが求められる。
- ・江戸川大学ならではの教員養成を示すことが、学生の意欲にもつながると考えられる。

■ 教育課程（教職に関する科目等）、履修方法及びシラバスの状況

<講評>

- ・「教科に関する科目」についても、教員を育てる意識を持ち、学習指導要領や学習指導要領解説の内容を踏まえて授業を行ってほしい。
- ・授業科目「進路指導論」を視察させていただいたが、スキルばかりではなく、なぜキャリア教育が必要なのかという意味を強調することが重要である。中央教育審議会におけるキャリア教育についての審議の方向性などを念頭に置いた講義を目指してほしい。
- ・教育についての新しい動きに対応していくため、教員養成におけるFDに取り組んでほしい。

■ 教育実習の取組状況

<状況>

- ・ 4年次の5月～11月に、中学校3週間、高等学校2週間で実施。
- ・ 現状では、ほとんどが学生の母校での実習となっている。
- ・ 現状では、教職課程を履修している学生が少ないことから、母校実習の場合も含めて必ず大学から実習校に連絡を取り、一度は担当教員が実習校を訪問して指導を行っている。

<講評>

- ・ 母校実習はなるべく避けるようにし、近隣に協力校を作り、大学として主体的に指導を行うよう努めて欲しい。
- ・ 実習校との連携に関して、事前の打ち合わせ、事後の対応も重要であり、さらに成果を上げられる仕組みを検討してほしい。

■ 学校現場体験・学校ボランティア活動などの取組状況

<状況>

- ・ 学校ボランティアを含むボランティア活動を行う科目として『地域ボランティアプログラム』を「教科又は教職に関する科目」として開設し、推奨している。
- ・ 地域貢献プログラムに参加する『地域フィールドプログラム』を授業科目として開設している。
- ・ このほか、授業科目としての設定はないが、近隣小学校学習補助ボランティア等を教職課程センターにおいて推奨しており、参加の実績がある。

<講評>

- ・ 学校ボランティアを単位化するなど、魅力的な取組を行っており、評価できる。教職の魅力を学生にアピールする効果も期待できるため、さらなる充実を期待したい。

■ 教職指導及びその指導体制の状況

<状況>

- ・ 学年毎に教職課程説明会を実施し、あわせて個別相談会を実施している。
- ・ 時間割作成の相談に応じる「履修チューター」として、教職課程を履修する4年生を相談室に配置している。

<講評>

- ・ 教職課程の履修ガイダンスは非常に重要。教職課程の履修モデルを示すことが各学科の課題であり、今後検討してほしい。学生による「履修チューター」などの活用は、学科としての教職指導・指導体制を整えた上で行うべきである。
- ・ 教職課程の履修者が少ないため、教職課程に関する努力を生かせるよう、教職指導のさらなる充実が求められる。

--

■ 教員養成カリキュラム委員会などの全学的組織の状況

<状況>

- ・全学的な調整等は教務委員会において行っている。
- ・教務委員会の下に教職課程センター運営委員会を置き、教職課程の企画・運営等を担当している。当該委員会には各学科が参画している。

■ 施設・設備（図書等を含む。）の状況

<講評>

- ・情報機器については充実しており、申し分ない状況と言える。
- ・図書については、新しい図書を整備する必要があると考えられる。
- ・学習指導要領の解説、教科書の解説書、指導書等、教科指導関係の図書をさらに充実させることが必要である。